夕闇せまる仙崎港

朝鮮仁川府にて敗戦を迎えました。ラジオの放送にききいり、うつろの瞳で、幾すじもの涙が流れて暫く放心状態が続きました。戦争は敗戦にて終ったのだと云う実感がつかめませんでした。

主人は２０年８月１日２回目の召集になり、残された６才になる長男と臨月を迎えた私との生活でした。主人の出征後８月３日に二男誕生でした。

仁川港は終戦近くなると空襲警報が夜と、昼の別なくはげしくなって来ました。防空壕まで歩くことも無理でしたので、押入に布団を沢山積み重ねて、下段でもしもの時は親子３人共に死ぬ覚悟でした。

終戦になって、この先どう云うことになるか、いろんなデマの毎日が続きました。

〇月〇日何の前ぶれもなく主人が復員して帰りました。余り体も丈夫な方でなかった主人は顔はむくみ栄養失調でした。それでも生きて帰ってほんとうによかったと暫くは玄関に主人は棒立ち、私も夢心地で、涙が次から次と止めともなく流れて、言葉も暫くは出ませんでした。

それから幾日か立ち、愈々復員家族として、朝鮮京城駅より引揚げることになりました。数々の道中苦労がございまして、１日で帰れるのに敗戦の為、米兵や朝鮮政府の云うなりになり、戦のきびしさは肌にしみました。

１週間かかってやっと貨物船にて仙崎港に、夕闇せまる頃内地の土をふみしめた時は感無量でした。

それから毎日が生きて行くのに精一杯で、少ない引揚の衣類と食料と替えてもらったり無我夢中の連続でした。

そして幾歳月か過ぎて世の中も落ち着き、私達もどうやら人並の生活ができるようになり、子供も２男１女に恵まれ了、貧しいながらも平和な毎日がくらせるようになりました。３人の子供達も皆独立して、自営業の主として、生活できるようになりました。

これからと思っている時、主人が亡くなり、早や三回忌を迎えることになりました。ほんとうに永い間御苦労様と労をねぎらい、好きな旅行も充分楽しませて上げられたのにと思うと残念です。

これから子供達も親孝行ができたのにと「親孝行したい時は親はなし」、終戦の時、赤ん坊だった次男が、先日比島に出かけましたので、私の弟は１人息子でした。母１人子１人で、母は戦死の公報が出ても１０年間「若しや」と思って待ち乍ら他界しましたので、比島の石を二男に持ち帰ってもらって三十三回の法要の折、「安らかに御魂眠れよ」と念じつつ供養致しましてほっと致しました。

最後にこれからも全世界が平和でありますよう心から願ってやみません。